
悪夢

知秋一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢

【Nコード】

N7794C

【作者名】

知秋一葉

【あらすじ】

全ての始まりは一通のメール。終わりは死だった。その間。。。

全ての一切は、

一通のメールから始まった。

全然知らない出会いサイトからの一通メールだった。

「この時期、

欲求不満の女が何処にも遊びに行けず、

家で1人テレビを眺めながら過ごすと思うと涙が出てきます…」

メールの署名は所長だった。

毎日、メールをチェックする秋は、

それを見て無視した。

どうせ迷惑メールだと思った。

最近、

出会いサイトのさくらメールはよく入ってくる。

対策としてよくアドレスを変えた秋は、

今回、アドレスを変えなかった。

好奇心で、

そのさくらメールが、

どれぐらい続けるとみたいからだ。

一ヶ月経った。

メールの寂しい言葉に心を動かされた。

彼はサイトで短い返事した。

「僕はそのサイトで登録してなかった。

所長さんが見たプロフィールは僕じゃない。

早めに素敵な相手見つかるのを祈りますよ。」

彼女はすぐ返事を返してくれた。

携帯のアドレスも教えた。

一カ月後、二人は会った。
そして、北の雪山にも、南の温泉にも、
二人の愛の跡は残った。
半年後のある日、
突然、彼女からのメールがあつた。
「もう会えない。ごめん。ありがとう！
短いけど、幸せだった」

「君を守ってやる」
と、返事をしてから、
秋は彼女のマンションに向かって走った。
しかし、以外は起こった。
途中、車にはねられた。
病院に送られたが、
手遅れだった。
車はある暴力団の車だった。

数日後、
秋の墓の前に、
黒い衣装の彼女は現れた。
「秋の敵討ちをしたよ。
これからもう離れないよ。ずっと！」
すると、
彼女は倒れた。
鋭いナイフを自分の手で、
自分の胸に挿した。
翌日、新聞に一本のニュースが出てきた。
「暴力団の幹部は愛人のマンションで死んだ。」

他殺可能性高い。さらに、その愛人はナイフで自殺……」
全ての終わりは死だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7794c/>

悪夢

2010年10月8日21時22分発行